

科 目	園芸汎論	講義 1 単位 実習 単位	形態:講義	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	宮坂 昌実、高橋 敬三、藤永 真史、小林 富雄、井ノ口 明義			
授業の到達目標	本県の野菜、花き等の施策、生産、流通等を広く全体的に理解する。			
授業概要	野菜花き等の施策、生産、流通などについて、幅広く講義を行う。			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成 績 評 価 の 方 法	出席率および受講態度等から、100点満点で評価し、50点以上で単位を認定する。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 本県における野菜の施策、生産、流通等について	本県野菜の振興施策、生産状況、流通や経営等を広く理解する。
2 本県における花きの施策、生産、流通等について	本県花きの振興施策、生産状況、流通や経営等を広く理解する。
3 野菜、花き以外の品目の状況	本県野菜、花き以外の振興施策、生産状況、流通や経営等を広く理解する。

科 目	青果物流通論	講義 1 単位 実習 単位	形態:講義	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	外部講師(JA職員 ほか)			
授業の到達目標	青果物流通についての基礎知識の習得。青果物貯蔵についての基礎知識の習得。			
授業概要	青果物の流通・貯蔵について、基礎知識の習得を行う。			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書	加工・業務用青果物における生産と流通の展開と展望			
成 績 評 価 の 方 法	試験は100点法により行い、50以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。出席率、履修態度等について総合的に評価する。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 長県花きについて	長野県内の花きの栽培、流通について
2 青果物の流通・貯蔵について	青果物の流通・貯蔵に関し、JA、農業法人、先進的農家への視察研修等

科 目	現地実習	講義 実習 1 単位	形態:実習	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	先進農家、農業生産法人等			
授業の到達目標	先進農家、農業法人での露地、施設での野菜花きの管理作業等を実践することで栽培方法等を習得する。			
授業概要	先進農家・農業法人による現地実習			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成績評価の方法	出席率および受講態度等から、100点満点で評価し、50点以上で単位を認定する。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 収穫調整について	収穫調整作業の実施
2 栽培管理について	栽培、管理の実施

科 目	フラワーデザイン	講義 1 単位 実習 単位	形態:講義	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	一色 菜津子(フラワーデザイン講師) (花の加工の専門家によるフラワーアレンジメントの指導)			
授業の到達目標	花の付加価値を高めるフラワーデザインを身に付けるために、フラワーアレンジメントや花束の作成を行い知識や技術の向上を図る。			
授業概要	フラワーアレンジメントの基礎技術の講義			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書	フラワーデザイナーのための花の教科書			
成 績 評 価 の 方 法	試験の結果、出席率、受講態度等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 花束の作成方法	花束の作成
2 フラワーアレンジメントの作成方法	フラワーアレンジメントの作成
3 コサージュの作成方法	コサージュの作成

科 目	特別講座	講義 2 単位 実習 単位	形態:講義	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:有		
担当講師	外部講師(JA職員、先進農家等) 他 調整中			
授業の到達目標	専門家による農業ビジネスモデル、経営管理、先進農家等による栽培技術及び農業経営、農業に関する諸制度等について理解を深める。 県内の野菜花き栽培・流通・土壌の特性等の理解を深める			
授業概要	外部講師、先進農家等による特別講義			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成績評価の方法	出席率および受講態度等から、100点満点で評価し、50点以上で単位を認定する。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 調整中	
2 長野県の農業	JA職員による県内の野菜の栽培・流通について、 県内の土壌の特性、栽培についての講義

科 目	野菜各論	講義 1 単位 演習 10 単位	形態:講義	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	川上 暢喜、三浦 斗夢、中塚 雄介、佐藤 壮峻、平賀 正浩、北原 茉依、小木曾 秀紀			
授業の到達目標	本県で生産されている主要な野菜について、その生理生態および栽培技術等を理解するとともに、基本的な栽培技術を習得する。			
授業概要	野菜の主要品目の生理生態及び栽培技術等について講義・演習を行う。			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成 績 評 価 の 方 法	試験の結果、出席率、受講態度等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
講 義	
1 本県における野菜生産について	本県の野菜生産の現状と課題について
2 本県の主要な野菜品目の生理生態、栽培技術について	レタス、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、アスパラガス、セルリー、キュウリ、トマト、イチゴ、スイカ等の生理生態および栽培技術について
演 習	
1 本県の主要な野菜品目の生理生態、栽培技術等について	レタス、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、アスパラガス、セルリー、キュウリ、トマト、イチゴ等、品目ごとの基本的な栽培技術および経営実践に向けた生産技術の習得 栽培過程に必要な土壌肥料、病害、虫害について知識の習得

科 目	花き各論	講義 1 単位 演習 10 単位	形態:講義および実習	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	神谷 勝己、森野 林太郎、佐藤 智博、金井 希美、秋山 祥恵、			
授業の到達目標	本県で生産されている主要な花き品目について、その生理生態および栽培技術等を理解するとともに、基本的な栽培技術を習得する。			
授業概要	花きの主要品目の生理生態及び栽培技術等について講義を行う。			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成 績 評 価 の 方 法	試験の結果、出席率、受講態度等から総合的に評価する。 試験は100点法により行い、50点以上を合格とする。50点未満の学生には再試験を行うことができる。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
講 義	
1 本県における花き生産について	本県の花き生産の現状と課題について
2 本県の主要な花き品目の生理生態、栽培技術について	キク、カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、ストック、ダリア、シクラメン等の生理生態および栽培技術について
演 習	
1 本県の主要な花き品目の生理生態、栽培技術等について	キク、カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、ストック、ダリア、シクラメン等、品目ごとの基本的な栽培技術および経営実践に向けた生産技術の習得 栽培過程に必要な土壌肥料、病害、虫害について知識の習得

科 目	専攻研究	講義 4 単位 実習 28 単位	形態:講義および実習	野菜花き研究科
講義時期:前期・後期		実務経験者による講義の有無:無		
担当講師	専攻品目担当職員			
授業の到達目標	試験研究の計画→実行→調査→観察→記録→分析→考察等の学習過程を通して科学的な思考力、判断力を養う。また、学習の対象とする品目の生理生態および栽培技術、土壌肥料、病害・虫害等の防除、施設利用を理解するとともに、基本的な栽培技術を習得する。			
授業概要	学習過程を通して科学的な思考力、判断力を養うとともに、対象品目の生理生態と栽培技術、土壌肥料、病害・虫害、施設利用等を身に付ける。			
使 用 教 科 書				
主 な 参 考 図 書				
成 績 評 価 の 方 法	実習態度、栽培技術の習得状況などを総合的に評価。専攻研究発表会にて発表内容、発表態度等について評価。 100点満点で評価し、50点以上で単位を認定する。			

授業計画	
項 目	教 授 内 容
1 試験研究の計画作成	試験計画作成方法について学ぶ。
2 試験ほ場の準備	反復、試験区割り等の考え方や、ほ場整備に必要な小農具、機械の使い方について学ぶ。 ほ場づくりに必要な土壌、適正施肥等土壌肥料について学ぶ。
3 栽培管理	栽培過程における、病害、虫害等について適切な防除方法、使用薬剤等について学ぶ。
4 調査手法	生育、収穫調査の基本的な方法について学ぶ。
5 調査結果の取りまとめ	エクセルの基本的な使い方とデータの分析手法について学ぶ。
6 調査結果の考察	分析から得られた結果をまとめ方について学ぶ。
7 成果発表	パワーポイントの基本的な使い方と、まとめた試験結果を分かり易く第三者に伝えるための手法を学ぶ。